

平成 年 月 日

浜田市議会議長 牛尾博美様

議員名 芦谷英夫 ㊟

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1、期 間

平成22年7月31日(土)～8月1日(日)

2、視察先

広島市

4. 調査経費

研究研修費 2,000円

4. 調査研究活動の概要

別紙のとおり



自治体職員有志の会第7回シンポジウム in 広島

(平成22年7月31日～8月2日)

自治体職員有志の会第7回シンポジウム in 広島が開かれ、テーマは“地域主権を担う自治体の変革とプロ職員の条件”で、開会の挨拶での自治体職員有志の会代表山路栄一さんの、組織に居るだけで罪になる不燃性の“人罪”、火を点ければ燃える可燃性の“人材”、組織を変えて行く自然性の“人財”という言葉が印象に残り、自然性職員が増えることを期待された。

シンポジウムで広島県の湯崎英彦知事は、組織は必ず自己目的化する、予算主義から成果主義への転換、これだけの予算を使わなければならないのか？少ない予算でこれだけの成果を上げたと、予算がなければ知恵を出す。佐賀県の古川康知事は、きまりを守ることがコンプライアンスではなく社会要請や県民の期待に応えること、権限くれ財源くれが地域主権ではなく責任を取らせること、と。

生駒市の山下真市長は、国民が総評論家となっており政治は政治家にやらせそれを国民が盛り上げる、意識の高い市民をどうつくるか、役所・職員と良き市民との良き関係をどうつくるか、市民の意見をよく聴き市民の知恵を活用せよ、コンサル依存を止め、職員は給与にふさわしい企画・立案力を発揮する仕事をせよ、と。

元吉由紀子さんは、役所・公務員を変える方法の一つとして、オフサイトミーティングを紹介されこれは気楽にまじめな話をするもので、立場や肩書を外し相手の身になってよく聴き弱みを見せて一緒に困る。金田博恵さんは、職場のチームワークをよくするために、目的やビジョンを共有する、つなぐ“のりしろ”余裕・余白を、仲間を信じる、と。

市民と職員と政治家（首長・議員）とは、同じぬるま湯、井の中、コップの中の争い、と指弾されないように心し、お互い相照らす鏡の関係ではないかと思ったところである。自治体変革とそれを担う職員の変革には、今までのことをすべてチャラにしてゼロからやり直してみる勇気を、“願みて他を言う”ことなかれ一蓮托生！をと感じた次第である。